

評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	学校教育	施策の方針	学校施設の整備
目標とすべきまちの姿	平成22(2010)年度をもって既に完了している学校施設(校舎・体育館)の構造体の耐震補強に加えて、非構造部材の落下防止等耐震対策が講じられているため、児童生徒が安全かつ安心に学習できる環境が整備されています。 また、トイレ等衛生設備の整備など、健全な学習環境の構築に資する取組が進められています。一部の学校においては、エコスクールの推進に向けて、太陽光発電設備又はLED等次世代型照明器具が導入されています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成30年度(2018年度)	18.8%	平成29年度(2017年度)	21.3%	平成28年度(2016年度)	21.3%
	平成27年度(2015年度)	25.3%				

(2) 妥当性

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	2.1%	1.8%	0.7%
	ちょうどよい	0.8%	48.4%	2.5%
	効果不十分	1.2%	1.5%	18.0%

平成30年度(2018年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	1.6%	2.6%	0.0%
	ちょうどよい	2.1%	45.2%	3.0%
	効果不十分	0.9%	1.4%	17.2%

平成29年度(2017年度)

施策の方針全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	2.5%	3.4%	0.5%
	ちょうどよい	3.0%	49.4%	1.8%
	効果不十分	0.7%	1.1%	11.2%

平成28年度(2016年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	1.7%	1.3%	0.0%
	ちょうどよい	4.4%	47.2%	1.0%
	効果不十分	1.9%	1.9%	9.7%

平成27年度(2015年度)

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成30年度(2018年度)	32.2%	42.8%	2.0%	23.0%
平成29年度(2017年度)	20.3%	45.9%	2.7%	31.0%
平成28年度(2016年度)	20.1%	51.2%	2.1%	26.6%
平成27年度(2015年度)	28.3%	42.5%	2.8%	26.4%

2 内部評価

(1) 平成30年度(2018年度)の目標

平成31年度の全校普通教室への冷暖房設備設置完了に向け、計画に基づき小学校6校の設置工事を進める。(教育-18)
 トイレの改修を加速化し、令和2年度(2020年度)までの3か年で12校20系統(小6校10系統、中6校10系統)のトイレを改修を完了するよう事業着手する。(教育-18、19)
 一部未了のため、平成30年度(2018年度)に繰越した大船中学校校庭整備工事を完了させる。(教育-19)
 学校施設の老朽化の状況を調査し、長寿命化や改築、大規模改修等の施設整備計画の策定を進める。(教育-18、19)
 照明器具はさらにLED化を推進し、トイレ改修工事では節水型衛生器具の採用や照明器具に人感センサーを設置する等、学校施設整備時に合わせながら、エコスクールの取組を推進する。(教育-18、19)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成30年度(2018年度)の目標との関連性

学校施設整備に関する事業の実施については、教育環境の改善が図られ、健全な学習環境の構築に資する。(教育-18、19)
 の施設整備計画の策定は、児童生徒が安全かつ安心に学習できる環境を整備するための基本となるものである。(教育-18、19)
 LED照明器具の設置やトイレの照明器具に人感センサーの設置を進めることにより、エコスクールの推進につながる。(教育-18、19)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託事務	今後の方向性	
整理番号	事業名	平成30年度(2018年度)	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	令和元年度(2019年度)	平成30年度(2018年度)	令和元年度(2019年度)		事業内容	予算規模
教育-18	小学校施設整備事業	767,108	513,947	781,794	396,123	1.9	2.0	無	b	A
教育-19	中学校施設整備事業	502,843	227,665	513,665	516,842	1.4	1.5	無	b	A

(4) 主な実施内容

【主な実施内容】
 第二小学校外5校の冷暖房設備設置工事をを行った。(教育-18)
 七里ガ浜小学校外5校の冷暖房設備設置工事設計業務委託を行った。(教育-18)
 トイレ改修について、12校20系統中2校2系統(関谷小学校、腰越中学校)の改修を実施、残る10校18系統については改修業務委託を行った。(教育-18、19)
 一部未了のため、平成30年度(2018年度)へ繰り越した大船中学校校庭整備工事をを行った。(教育-19)
 学校施設の老朽化状況調査業務委託を行った。(教育-18、19)
 トイレ改修工事及び冷暖房設置工事の実施に合わせて、LED照明器具、節水型衛生器具、人感センサーによる自動水栓及び自動点灯照明を導入した。(教育-18、19)

【実施できなかった事業とその理由等】

(5) 平成30年度(2018年度)の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	適切	要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	適切	要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	適切	要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	適切	要改善

< 上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等 >

・トイレの改修については、設計から工事までを一括して委託する新たな手法を採用し、事業の加速化を図ることができたため、効率性及び有効性を適切と評価した。(教育-18、19)
 ・児童生徒が安心して学習できる環境を整えるため、計画的に施設整備が進められたことから、妥当性を適切と評価した。しかしながら、限られた財源を踏まえつつ学校施設整備を推進するため、最小の経費で最大の効果が得られるよう、事業手法、財源確保策等について検討を行っていく必要があると考えている。(教育-18、19)
 ・未改修のトイレについて、「トイレ環境改善業務委託」により改修を加速化させることができたため、公平性を適切と評価した。(教育-18、19)

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

市民意識調査の結果を見ると、経費及び効果について妥当であるとの割合が一番高いものの、「足りない・効果不十分」の割合が年々上昇している。また、今後の進め方についても「もっと力をいれるべき」との意見が増えていることから、さらなる拡充の必要性があるものと考えており、適切な成果を得られるよう早期改善に向け、費用対効果を踏まえ、事業手法、内容等の見直しを行いながら、計画的に施設整備を進めていく。(教育-18、19)
 取組の認知度及び適切な効果が得られていないことから、HP等を活用して取組を周知していく。(教育-18、19)

(7)令和元年度(2019年度)の目標

令和元年度(2019年度)の全校普通教室への冷暖房設備設置完了に向け、計画に基づき小学校6校の設置工事を進める。(教育-18)
 トイレの改修について、令和2年度(2020年度)までの3か年で残る10校18系統(小学校5校9系統、中学校5校9系統)のトイレを改修を完了するよう事業を推進する。(教育-18、19)
 学校施設老朽化状況調査結果を基に、今後の学校施設のあり方の検討を進め、学校施設整備計画を策定する。(教育-18、19)
 照明器具はさらにLED化を推進し、トイレ改修工事では節水型衛生器具の採用や照明器具に人感センサーを設置する等、学校施設整備時に合わせながら、エコスクールの取組を推進する。(教育-18、19)
 御成小学校旧講堂保存活用計画を踏まえた改修工事の実施に向けた検討を行う。(教育-18)

(8) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

学校施設整備に関する事業の実施については、教育環境の改善が図られ、健全な学習環境の構築に資する。(教育-18、19)
 の施設整備計画の策定は、児童生徒が安全かつ安心に学習できる環境を整備するための基本となるものである。(教育-18、19)
 LED照明器具の設置やトイレの照明器具に人感センサーの設置を進めることにより、エコスクールの推進につながる。(教育-18、19)
 御成小学校旧講堂については、学校施設として活用することを前提としており、児童が安全かつ安心に学習できる環境の整備につながる。(教育-18)

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	教育-18	事業名	小学校施設整備事業					単位	校	指標の傾向	備考
指標の内容	普通教室への冷暖房設備設置										
当該指標を設定した理由	計画通り令和元年度(2019年度)までに小学校全16校の普通教室に冷暖房設備を設置する										16校中10校設置済み。
	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)				
	目標値	-	-	-	4	6	6				
	実績値	-	-	-	4	6					
	達成率	-	-	-	100.0%	100.0%					
整理番号	教育-18	事業名	小学校施設整備事業					単位	系統	指標の傾向	備考
指標の内容	トイレの改修										
当該指標を設定した理由	5校9系統のトイレが未改修(平成30年度(2018年度)末時点)だが、令和2年度(2020年度)までに全て改修を行う										令和2年度(2020年度)までに全ての改修を完了する。令和2年度(2020年度)は4系統実施予定。平成30年度(2018年度)に、10系統の改修を計画し、1系統改修済み。
	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)				
	目標値	1	-	1	2	1	5				
	実績値	1	-	1	2	1					
	達成率	100.0%	-	100.0%	100.0%	100.0%					
整理番号	教育-19	事業名	中学校施設整備事業					単位	系統	指標の傾向	備考
指標の内容	トイレの改修										
当該指標を設定した理由	5校9系統のトイレが未改修(平成30年度(2018年度)末時点)だが、令和2年度(2020年度)までに全て改修を行う										令和2年度(2020年度)までに全て(10系統)の改修を完了する。令和2年度(2020年度)は4系統実施予定。平成30年度(2018年度)に、10系統の改修を計画し、1系統改修済み。
	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)				
	目標値	1	-	-	-	1	5				
	実績値	1	-	-	-	1					
	達成率	100.0%	-	-	-	100.0%					

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

・東日本大震災、熊本地震のような大規模地震に対する防災対策が必要であるが、老朽化の進む学校施設に対し限られた予算の範囲で、学校施設の維持保全・延命化はプライオリティを考慮しながら効率的な整備が必要である。

指摘への対応、コメント等

・柱や梁などの学校施設の構造体の耐震補強工事は既に完了し、大空間における天井などの非構造部材の耐震対策についても平成30年度(2018年度)で完了しました。また、「鎌倉市公共施設再編計画」や「地域拠点校選定の考え方」を踏まえ、学校施設の改築や長寿命化等、学校施設の整備に関する基本方針を示した「学校施設整備計画」を策定し、計画的に整備を進めていきます。

提言

・鎌倉市公共施設再編計画との整合性を考慮しながら、改築や大規模改修等の実施してほしい。冷房設備設置工事、トイレ改修工事などいずれも必要な事業として理解できるが、限られた予算の範囲で、学校施設の維持保全・延命、プライオリティを考慮しながら効率的な整備が必要である。

提言に対するコメント等

・「鎌倉市公共施設再編計画」のほか、「地域拠点校選定の考え方」を踏まえ、学校施設の改築や長寿命化等、学校施設の整備に関する基本方針を示した「学校施設整備計画」を策定し、計画的に整備を進めていきます。

・学校施設は児童生徒のために安全・安心して利用できる建物であるのは当然だが、同時に、災害時に児童生徒のみならず市民の災害避難拠点となり得る施設である。そのことを踏まえて、災害の際にも最低限の電力が確保できる(自家発電?太陽光とか?)、水が供給できる(受水槽タンクの設置や中水利用?)ような設備を整備していく必要があるのではないか。それらとエコスクールの推進と絡めながら、計画していくことはできないか。分野は異なるが、防災関連事業と連携して効率的に進めることはできないのか。

・市では、災害時の避難所として小中学校をミニ防災拠点に位置づけていることから、防災備蓄倉庫、マンホールトイレ、ビットイレ、非常用電話等の整備、備蓄品の保管等、市長部局防災安全部と連携、協力しながら事業を進めています。引き続き、関連部署と連携を図りながら取り組んでいきます。

・「健全な学習環境の構築に資する取組が進められている」という「目標とすべきまちの姿」に対して、「トイレ、冷暖房」「防災対策」「LED」以外の設備に関しての取組に期待する。

・引き続き、様々なニーズを捉え、児童生徒の学習・生活環境の改善に努めていきます。

・「目標とすべきまちの姿」は一部の学校においてエコスクールの推進に向けて次世代型証明器具が導入されていますとあるが、目指すならば一部ではないはずである。

・目標とすべきまちの姿は、第3期基本計画の最終年度である令和元年度(2019年度)をイメージしています。次世代型照明器具については、全ての学校への導入に向け、順次LEDに更新しています。

・「目標とすべきまちの姿」にある「平成22(2010)年度をもって既に完了している学校施設(校舎・体育館)の構造体の耐震補強に加えて、非構造部材の落下防止等耐震対策が講じられているため、児童生徒が安全かつ安心して学習できる環境が整備されています。」について、「耐震補強」が必要な構造体が全部で何カ所あり、どのような対策が必要であるのかを明確にし、「指標」として明示すべき。

・柱や梁などの学校施設の構造体の耐震補強は、既に完了しています。今後、指標の設定に当たっては、提言を参考にしながら、分かりやすい形で明示していきたいと考えます。

・「指標」の「普通教室への冷暖房設備設置」「トイレの改修」について、目標値と実績値が同一であれば本来達成率は100%であるが、達成率は全校をもとに算出している。最終目標を備考欄に記載し、年度の目標値で達成率を算出すべき。

・ご指摘を受け修正しました。

学校施設の整備

評価できるところ

- ・老朽化の進む学校施設及び設備について、限られた予算の範囲で、学校施設の維持保全・延命化に努めている中で、ほぼ計画どおりに施設整備事業を実施した。
- ・第二小学校外5校の冷暖房設備設置工事を行った。
- ・トイレ改修について、12校20系統中2校2系統(関谷小学校、腰越中学校)の改修を実施、残る10校18系統については改修業務委託を行った。
- ・学校施設の老朽化状況調査業務委託を行った
- ・学校施設整備時に合わせながら、エコスクールの取組を推進した。
- ・エコスクールの推進については目標とすべき姿に掲げられている。照明器具はさらにLED化を推進し、トイレ改修工事では節水型衛生器具の採用太陽光発電設備又はLED等次世代型照明器具の導入を行っていく等の指針が示されている。
- ・前年度のことではあるが学校施設の耐震補強は全て完了している点なども評価できる。

評価の内訳			
取組	5	0	3
効果	3	0	- 5

委員会の評価

課題

- ・東日本大震災、熊本地震のような大規模地震に対する防災対策が必要であるが、老朽化の進む学校施設に対し限られた予算の範囲で、学校施設の維持保全・延命化は課題である。
- ・大規模災害が近年多い状況は引き続き継続している。熊本地震西日本豪雨災害のような大規模地震に対する安全確保、防災対策の視点で整備を行ってほしい。
- ・限られた予算の範囲で、学校施設の維持保全・延命、プライオリティを考慮しながら効率的な整備が必要である。
- ・小・中学校の施設管理は定期的に行われているのか。必要に応じて行っているように見える。

提言

- ・鎌倉市公共施設再編計画との整合性を考慮しながら、改築や大規模改修等の実施してほしい。冷房設備設置工事、トイレ改修工事などいずれも必要な事業として理解できるが、限られた予算の範囲で、学校施設の維持保全・延命、プライオリティを考慮しながら効率的な整備が必要である。
- ・小学校学校給食を試食する機会を得たが、数字上では栄養素が満たされていると思うが育ち盛りの子どもには少ないように思えた。きめ細かい配慮を望む。
- ・エコスクールの取組について、設備的取り組みは十分なされているが、今度は環境や教育と絡めて施設の省エネについての取組が進むとより先進的であると思う。
- ・目標に照明器具のLED化を推進とあるので、どの程度LEDに変わったのか指標にしても良いのではないかと。
- ・エコスクールの推進について、ソーラーパネルの設置なども指標に設定して頂きたい。

質問

- ・エコスクールの推進はどの程度進んだのか？